

発言No. 1

受付No. 19

令和7年6月12日

10時42分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 4 番

氏名 三浦大紀

答弁を求める者
(○をつける)

○市長 ○教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 不登校児童・生徒支援の再構築について

不登校は「本人の問題」ではなく、学校・家庭・社会の関係性の中で起こるものである。「学ぶことを止めさせない仕組み」を地域全体でどう支えていくかが、これからの浜田市に問われている。

- ① 当事者（児童・生徒）および保護者、学校現場からのニーズや声を、市としてどのように把握しているか。
- ② 当該分野における ICT の活用（LINE 相談、オンライン保護者会など）はどのような状況か。
- ③ 支援体制の拡充について、民間団体との連携はどのように考えているか。

2. 新市誕生 20 周年の節目に問う地域政策について

合併から 20 年が経過する中で、中心部と周辺部との間で機能格差や心理的な距離感が拡大していないかが問われている。“祝う”だけでなく、“振り返る”という姿勢も不可欠であり、真の一体感や「まちへの誇り」をどう育んでいくのが、これからの地域運営における重要な視点であると考ええる。

- ① この間の地域への影響や住民意識の変化について、市としてどのように把握し、評価してきたか。

発言No.

2

受付No.

16

令和 7 年 6 月 12 日

(0 時 22 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 11 番

氏名 小川 稔 宏

答弁を求める者

(○をつける)

☒ 市長

☒ 教育長

監査委員

選挙管理委員会委員長

農業委員会会長

固定資産評価審査委員会委員長

公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 市独自で実施可能な物価高騰対策について

(1) 家計を助ける市独自の生活支援策について

- ①物価高騰の市民生活への影響と支援について伺う。
- ②水道料減免の支援策に対する認識を伺う。

2 介護報酬改定に向けた早急な対応について

(1) 介護事業者の現状把握と国への要望について

- ①介護事業所の厳しい実情への認識と支援の考え方を伺う。
- ②介護報酬の早期改訂を求めることへの対応について伺う。

3 浜田圏域の安心安全な医療体制の維持について

(1) 地域医療を守る中核病院の現状と課題について

- ①浜田医療センターの医師・看護師数の推移、診療科の休止状況などの充足状態と経営状態について伺う。
- ②病院経営の悪化や医師偏在の原因・背景と改善に向けた方向性について伺う。

4 米軍機騒音問題に対する基本姿勢について

(1) 旭中学校防音工事を巡る費用負担の妥当性について

- ①国へ応分の負担を求める市としての方向性と手法について伺う。
- ②防音工事の国基準の制度変更を求める取組について伺う。

5 生徒数減少の下での部活動・教育環境の維持について

(1) 地域移行も含めた中学校部活動の方向性について

- ①中学校の部活動の休部・廃部、合同チームの現状と部活動地域移行の検討状況について伺う。

(2) 児童・生徒数の減少と教育環境の維持について

- ①過去6年間の出生数の推移、生徒数の推計から見た小中学校の適正規模に対する考え方を伺う。

発言No.

3

受付No.

4

令和7年6月10日

14時22分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 19 番

氏名 田畑 敬二

答弁を求める者

(○をつける)

☒ 市長

☒ 教育長

☐ 監査委員 ☐ 選挙管理委員会委員長

☐ 農業委員会会長 ☐ 固定資産評価審査委員会委員長 ☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 令和7年度地域井戸端会における意見について

(1) 市道及び県道の対応について

- ①市道における支障木の対応が遅れているとの声があったが、今後の対応状況について伺う。
- ②通学路に覆いかぶさる樹木もあるが、対応の考えについて伺う。
- ③市道のセンターライン・サイドラインが消えている所があるが、対応について伺う。
- ④県道の対応に係る県との連携の状況について伺う。

(2) 通学路にある落石防止の防護柵について

- ①防護柵等を含めての安全対策の取組状況について伺う。

(3) スクールバスについて

- ①小学生及び中学生の乗車基準について伺う。
- ②乗車基準を市内で統一する必要があると考えるが、市の見解について伺う。

2 今後の支所の体制について

平成27年度から支所平均20人体制として、災害時に対応できる体制を整えられている。

- ①現行の支所の職員体制について伺う。
- ②人件費は、年間、合計59億円から67億円である。これは、定員管理計画に基づいて事務の改善、組織機構の見直しを実施した結果であるのか、その認識について伺う。

発言No.

4

受付No.

11

令和 7 年 6 月 12 日
9 時 27 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 5 番

氏名 沖田真治

答弁を求める者
(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. まちづくり総合交付金について

(1) 総合交付金制度の継続について

- ① 浜田市まちづくり総合交付金制度は、令和 7 年度で終了を迎えるが、現状の地域活動における総合交付金の必要性、近年のまちづくり推進委員会の設立状況などを踏まえると、打ち切りは現実的ではないと考える。現在の検証委員会での議論を踏まえ、今後の制度の継続性と見通しについての見解を伺う。

(2) 制度の効果について

- ① 制度開始以来、地域における主体的な課題解決や活動等が定着してきているように思える。市としてこれまでに得た成果をどのように捉え、長年に及んだ事業をどのように評価しているのか伺う。

(3) 制度の課題について

- ① 制度上の事務手続が煩雑であることから、旧那賀郡のまちづくり推進委員会においては、まちづくりセンター職員が事務作業を担っているが、旧市内においてはまちづくりセンターが担える体制が整っていないことが課題であると思う。市としての認識を伺う。
- ② 地域課題解決に向けた提案や組織活動、運営が一部の住民に偏りがちになっている状況をどのように認識しているのか伺う。
- ③ 課題解決特別事業の応募件数が毎年、少ないことについての認識を伺う。

(4) 今後の制度設計について

- ① 制度開始から20年以上が経過し、制度開始当初は地域を支えてきた世代の高齢化により、後継者不足が各地域における解決すべき喫緊の課題である。制度を継続していくうえで人材育成や次世代の参画についての仕組みづくりを、どのように考えているのか伺う。
- ② 地域のニーズが、イベント開催から環境整備、生活インフラの維持と言った、生活に身近な課題解決へと変化してきている。特に高齢化が進む中山間地域で高まっている生活インフラの維持に対し、現行の制度では算定基準や用途における制限がネックになっている場合も見受けられることから、地域の実情に応じた制度設計が必要ではないかと思うが、市としての認識を伺う。
- ③ 現行の制度では、まちづくり推進委員会など地域単位の組織でなければ申請できないことが、住民の自由な挑戦の妨げになっていると考える。申請主体を地縁組織から目的を持った団体も加えることも必要であるとする。市としての考えを伺う。

発言No.

5

受付No.

6

令和7年 6 月 11 日

10時 21分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 22 番

氏名 牛尾昭

答弁を求めるもの

(○をつける)

(市長) 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1、市民に伴走する取組について

(1) 西条柿生産農家への支援策について

今回の地域井戸端会では、

- ①特に、東平原の生産農家から、年度初めに補助金制度の相談に伺ったが、すでに上限に達したとの対応だったことについての原因を問う。
- ②多くの生産農家が望んでいる安定感のある三脚、脚立の購入が補助金の対象外となっているが、どうにかならないかとの問いがあったことへの対策について問う。

(2) 鳥獣害対策について

- ①ハクビシンやイノシシ対策の支援強化策について問う。
- ②シカが、電柵を飛び越えて作物を荒らし困っていることへの対策について問う。

(3) 子育て中のお母さん方の要望について

- ①子育て世代包括支援センター「すくすく」の施設内で、もう少し自由に飲食が出来ないかという指摘に対する対応について問う。
- ②すくすくでの地域井戸端会には、多くのお母さん方が参加されていて、短時間勤務する職場がないとの相談があった。例えば、市役所で子育て枠を設けて、パートタイム勤務や在宅勤務などで、働くお母さん方の支援ができないか問う。
- ③もう一人こどもが欲しいのに、無痛分娩が出来ないことへの対策はないのかを問う。

(4) まちづくり総合交付金制度について

今福地区の問題であるが、高齢者の方々が熱心にサツマイモを栽培されているが、茎を切る機械がなく作業がはかどらず、機械購入を考えた場合、課題解決特別事業費を少しオーバーし、お困りのようである。これこそ、高齢者の健康増進や生きがいに必要な施策であると考え、柔軟な対応が出来ないか問う。

(5) 小規模農家からの要望に対する担い手確保・経営強化支援事業について

①小規模農家対策として、機械購入支援策が設けられた。担当職員にお願いしてチラシを作ってもらい、まちづくりセンターや個別配布、地域井戸端会で告知した。反応は、評価する意見、少額すぎるとの意見など様々であった。現状の申込状況を問う。

2、地域資源を活用した地域経営について

(1) 水産加工団地や瀬戸ヶ島埋立地の活用について

瀬戸ヶ島埋立地は、長らく野ざらしのまま、水産加工団地には、空き地が点在している。これらは、水産業振興・水産加工業振興のための地域資源であるが、十分に活かされていない。先ごろ、団地には(株)三陽の進出が決まり、さらには操業の前倒しや投資額も増額の予定である。一方で、瀬戸ヶ島では、サーモンの陸上養殖の調査のため、プロキシマー(株)と市が協定を結ばれたことについて、以下7点伺う。

- ①新設の漁港活性化担当係の使命を問う。
- ②(株)三陽進出後の見通しについて伺う。
- ③地元企業との関係について伺う。
- ④(株)三陽への市の支援策について問う。
- ⑤プロキシマー(株)進出に当たっての課題について伺う。
- ⑥企業の意向について伺う。
- ⑦プロキシマー(株)への市の支援策を問う。

発言No.

6

受付No. 13

令和7年6月12日

9時59分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 2番

氏名 村 木 勝 也

答弁を求める者

(○をつける)

☒ 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 令和7年6月4日公布の災害対策基本法の一部改正に係る浜田市の対応について

(1) 被災者に対する福祉的支援等の充実について

- ① 「被災者に対する福祉的支援等の充実」における「福祉サービスの提供」の対応を伺う。
- ② 福祉避難所の開所において、「福祉避難所の確保・運営ガイドライン(令和3年5月改定)」との相違があるように思うが所見を伺う。
- ③ 支援につなげるための被災者、避難所の状況の把握の方策を伺う。
- ④ 市の災害対策本部設置までの段階と、段階毎の職員数(本庁・支所)を伺う。
- ⑤ 市職員、消防職員、消防団員の「マイ・タイムライン」の策定状況を伺う。

(2) 広域避難の円滑化について

- ① 浜田市における広域避難の現状を伺う。
- ② 今後における広域避難の方向を伺う。

(3) 被災者援護協力団体の登録制度の創設について

- ① この登録制度において浜田市の役割を伺う。

(4) 防災DX・備蓄の推進について

- ① 被災者支援等に当たって、デジタル技術の活用計画を伺う。
- ② 令和7年3月補正以降、現時点での備蓄計画の達成状況を伺う。
- ③ 一時避難所への備蓄物資、防災資機材等の整備状況を伺う。

2 放課後児童クラブにおける安全計画について

- ① 安全計画の策定状況を伺う。
- ② 同施設への防犯・防災資機材、備蓄物資の配置状況を伺う。
- ③ 防災研修の実施状況を伺う。

発言No.

7

受付No.

3

令和7年6月10日

4時22分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 10 番

氏名 串崎 利行

答弁を求める者

☒市長 ☒教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 農業の振興について

(1) 地域計画策定について

- ① 集落単位で地域の農地をどう利用していくか方針をまとめる計画で、10年後、誰が耕作するか農地一筆ごとに農家を位置付けるマップを、令和7年3月末までに作ることが義務付けられている。浜田地域、金城地域、旭地域、弥栄地域、三隅地域の各地域における地域計画策定の現状を伺う。
- ② 地域計画策定後の課題を伺う。
- ③ 地域計画策定後の基盤整備事業について、市の考えを伺う。

(2) 総合防除（IPM）について

- ① 農林水産省は、総合的病虫害・雑草管理（IPM）の新たな実践指針の方向性を示している。環境保護を重視した現指針から、予防と予察を重視し、農家の経済性も尊重した防除指針に転換する。防除コスト削減などの導入メリットや具体的な取組内容を例示し、農家のIPM導入の心理的・実践的ハードルを下げ、普及推進につなげると聞くが、市の考えを伺う。

(3) 給食費について

- ① 学校給食用米価の大幅な値上がりが給食費を圧迫し、全国的に、子どもや保護者に影響が及び始めたと聞くが、市の状況と今後の課題について伺う。
- ② 有機農産物の活用について影響があるのか伺う。

(4) 熱中症対策の義務化について

- ① 気象庁によると、今年の夏も気温は全国的に平年より高くなる見込みと聞く。懸念されるのが農作業中の熱中症による事故で、農林水産省の統計では毎年 20 人～40 人が熱中症で死亡している。そうした中、労働者を雇う全ての企業で熱中症対策が今年の 6 月から義務化された。人を雇っている農業法人なども対象となるが、市の対応について伺う。

2 除雪車オペレーターの確保について

- ① 今冬は、雪も多く連日のように除雪作業に追われた地区もある。高齢化が進みオペレーターの担い手確保が重要な課題であり、県は、除雪機械の運転資格の取得費用に対しての支援をしている。オペレーター確保について市の考えを伺う。

3 小中学校多機能トイレの整備について

- ① 校舎に多機能トイレを整備している小中学校は、2024 年において全国平均で 74.3%、島根県は、60.3%と聞く。浜田市の整備状況について伺う。
- ② 今後の整備について市の考えを伺う。

発言No.

8

受付No.

18

令和 7 年 6 月 12 日

10 時 35 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 1 番

氏名 肥後 孝俊

答弁を求める者

(○をつける)

☒市長 ☒教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

1. 公共施設における利用者側から見た通信環境の整備について

5 月から市内で地域井戸端会、都内で地方創生ベンチャーサミット・地方自治創造学会
6 月には都内で LINE Works DAY に参加し、市内各地域における住民の声を聞き、都内では、各界の著名人の講演や新しいサービスについて学び、時代を先取る先進性とボトルネックとなる部分を改善する実証を官民連携で成し遂げる熱意とアイデアに感銘を受けた。そこで本市においても先進自治体の後を追い、チャンスを見て先頭に出る気概を持って取り組みれば、「地方創生 2.0」の一幕を開けられるのではないかと思います、以下質問する。

(1) まちづくりセンターの通信環境について

- ① 会議室などの Wi-Fi 通信環境の現状について伺う。
- ② 携帯電波の受信感度状況について伺う。
- ③ スマート窓口事業が好評だが、まちづくりセンターへの導入の検討がされているのか伺う。

(2) 小中学校の通信環境について

- ① 小中学校における GIGA スクール構想で、普及した端末を同時利用した場合の回線速度について伺う。
- ② 指定避難所としての役割からも携帯電波の不感地帯とならない様に、体育館の電波状況の改善を携帯各社に求める考えはないか伺う。

2. 本市におけるスタートアップ・ベンチャー企業の誘致について

地方創生ベンチャーサミット 2025 に参加し、都市部で開発されたサービスが先進的な地方で実証されている現況を知った。本市においても深刻な人手不足と業務効率改善手法や、全く新しいビジネスを生み出している新興企業の本市への誘致状況を把握したい。これらを踏まえ、以下質問する。

- ① スタートアップ企業及びベンチャー企業の誘致状況について伺う。

- ② 市内で起業後の事業者の悩みについて伺う。
- ③ 誘致企業を生かした行政における業務効率化についての考えを伺う。

3. 事業用太陽光発電における現状と課題について

市内ゴルフ場の経営が変わり、近い将来、グリーンに太陽光発電が設置される事業計画が発表された。市内のゴルフ愛好家はもとより、県外市外からの誘客もある同施設であると聞いた。また、浜田市特定指定果樹の一つである赤梨が今年に入り2回の雹害を受け商品化が難しい状態を見て、営農型太陽光発電が雹害等の防御策かつ果樹栽培に適したものになるのか。光の面があれば影の面も同時にある再生可能エネルギーの設置における適材適所の一助なればとの思いで、以下質問する。

- ① 市内ゴルフ場における太陽光発電設置後の現況について伺う。
- ② ゴルフ場跡地における太陽光発電設置事業の許認可について伺う。
- ③ 市内における営農型太陽光発電の現状について伺う。

一般質問発言通告書

議席番号 20 番 氏名 西田清久

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 あらゆる災害時の対応について

(1) 防災行政無線屋外拡声子局について

- ① 浜田市では、防災行政無線のデジタル化によって緊急時の情報伝達を一層推進されようとしている。しかし、農業など屋外での仕事や災害避難中などにおいても防災行政無線屋外拡声子局の持つ役割は、大変重要と感じている。
現在の浜田市全体の屋外拡声子局のカバー率について市の認識を問う。

(2) 豪雨災害の避難シミュレーションについて

- ① 浜田市では、河川の本流、支流の周辺で生活をされ、集落を形成されている地域が多いと思う。豪雨災害を想定し、それぞれで自主防災組織を立ち上げ、避難訓練も実施されていると思うが、第一避難所がレッドゾーンになるケースもあると伺った。豪雨災害を大きく予測して地域まるごと集団避難をするシミュレーション訓練の必要性について問う。
- ② 幼稚園、保育所等幼児の避難訓練や防災シミュレーションの現状について問う。
- ③ 毎年行われる防災訓練については、街中や山間地では状況が違う。誰一人残さない地域の実状に即した現実的な防災訓練が行われているのか問う。

(3) 「熱中症」対策について

- ① 今年も市民の安全や健康を守るための熱中症対策について市長の所見を問う。

2 浜田市消防の体制について

(1) 消防の人員体制について

- ① 浜田市の消防本部、各出張所の人員体制の充足についての認識を問う。

(2) 職員の計画的採用について

- ① 浜田市の消防職員は、平成3年度から3年間程度10～20名が大量採用されたいと聞く。近い将来、一斉退職により人員不足が生じないよう計画的に採用すべきであると思うが、今後の採用計画について問う。

(3) 林野火災について

- ① 消防本部として林野火災の防止策、対応策の取組について問う。
- ② 林野火災の対応として、防火帯の設置が考えられるが、森林伐採に慣れた伐採事業者との協力が必要と考える。これまでに事業者との連携はあるのか問う。
- ③ 延焼が広がり、市の消防本部だけではどうにもならない場合、県内あるいは県外からの協力体制は出来ているのか、また連携協定はあるのか問う。

一般質問発言通告書

議席番号 21 番 氏名 川神 裕司

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 地域DX推進のための具体的戦略について

(1) 地域DX推進に対する基本的な「考え方」(ビジョンと理念)について

- ① 本市が抱える人口減少、高齢化、地域産業の活性化といった課題に対し、当市もDX推進室を設置しDX活用による取組を開始した。単にデジタル化を進めるだけでなく、DXによって「どのような未来の浜田市」を目指し、市民、事業者、そして市職員にとって「どのような価値」を創出していく考えなのか。その基本的な考え方・理念について市長の所見を伺う。

(2) DX推進戦略実現のための具体的施策について

- ① 市民がより便利で効率的に行政サービスを利用するためには、オンライン化、手続きの簡素化、データ連携等の推進が重要。今後行政サービスのDXを進める上での重点施策について問う。
- ② 以前、職員減少による業務過剰化を解決するために庁内業務のDX化推進を強く求めた。現在DX推進課も設置され役所内部の業務効率化、データに基づいた政策決定を推進するための環境整備が進んでいると思うが、今後庁内においてDXによる業務効率化をどう進めていくか伺う。
- ③ 市内中小企業、観光業、農林水産業といった地域産業のDXをどのように支援し、競争力向上や新たな事業創出に繋げていく考えか。具体的な成功事例創出への取組を伺う。
- ④ 福祉政策においても全国的にDXの導入で大きな効果が報告されている。今世界的にeスポーツの競技人口の増加が注目されている。そのeスポーツを行うことで高齢者の認知症予防に大きな期待がかかっている。まさに地域DX推進の入口としても、福祉戦略の推進も兼ねて、自治体としてeスポーツへの取組推進も有効と考えるが所見を伺う。
- ⑤ 地域DXを推進していく上で不可欠なデジタル人材の育成・確保について、外部専門家との連携や、大学・高専等との協定締結等も視野に入れる必要がある。市職員だけでなく、市民や事業者を含め、どのような取組を進めていくのか所見を伺う。

(3) 今後の具体的な「ロードマップ」について

- ① 上記の実現方法について、短期、中期、長期的な視点での具体的なロードマップと、それぞれの段階における目標設定、そして進捗をどのように評価・検証していくかという作業が極めて

重要である。着手すべき喫緊の課題における目標達成時期を含めた「DXロードマップ」について伺う。

2. 学生を含めた若者支援と定住化対策について

(1) 県立大学をはじめ学生支援について

- ① 現在、県立大学をはじめリハビリテーションカレッジ島根、ビューティカレッジ、看護学校等多くの学生が市内で生活している。今後継続的に浜田市の高等教育機関を選んでいただくためにも、快適で魅力ある都市の創造が急務である。学生からは家賃問題、移動交通問題等様々な要望が出されていると認識しているが、市長は学生支援に対する施策に関してどう推進しようとしているか所見を伺う。

(2) 若者の夢を応援する奨学金の拡充について

- ① 現在、高等学校や大学等で「夢」を実現するために勉学に励む若者にとって、奨学金制度は大きな後押しになる。しかしながら、浜田市奨学金、山藤功奨学金、給付型坂根正弘奨学金、それに加えて看護学校・保育士に対する修学資金貸付制度はあるものの、対象者の数や、修学資金貸付制度に関しては対象職種の拡大の要望も強い。現在の奨学金制度の充実のための制度検証を行っているか伺う。
- ② 奨学金の返還に関しては、就職後若者の負担になっている場合も少なくないと聞いている。全国的に奨学金が特定の条件を満たせば返還免除になる施策も増加していると認識しているが、この取り組みの拡充は市外から当市にUターンするための大きなアドバンテージとなると考えるが、市長の所見を伺う。

(3) 「大学を核としたまちづくり」の今後の取組について

- ① 現在の県立大学は、1993年国際短期大学がこの地に開学して以降多くの学生を輩出し、浜田市の貴重な知的財産と同時に、地域の活力と認識している。浜田市は「大学を核としたまちづくり」の一環として包括的連携協定を結んでおり、この取組により浜田市の課題解決に大きく寄与していると認識している。今後浜田市の地方創生を進めるためには、より市民の積極的な参加を伴う「大学を核としたまちづくり」の展開が必要と考えるが、市長の所見を伺う。

(4) 学生の定住化対策について

- ① 市は交流人口増加の施策を掲げており、定住化推進を期待するところである。現在、市外から県立大学やリハビリテーションカレッジ島根等に入学して学んでいる学生の数%でも卒業後定住していただければ、人口減少対策、人材確保対策に大きく貢献し、地域創生に大きな追い風となるのは明白。そのために地域との繋がりが大きな要素となる。

市内の福祉施設では福祉人材不足が深刻である。例えば、短時間でも福祉施設のスポットワークに学生が関わる取組、高齢者の認知症対策に県大生が有償ボランティアで関わる取組等、高齢者と県大生が繋がることで地域福祉力が上がることは間違いない。併せて学生が地域福祉にやりがいを見つけてくれたら定住化に繋がる可能性がある。このように、学生の定住化推進のため新しいパイロット事業を検討する必要があるのではないか、所見を伺う。

発言No. / /

受付No. 5

令和7年 6月 11日
9時 9分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 8 番 氏名 川 上 幾 雄

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 地域井戸端会で指摘された課題について

(1) 地域交通について

- ① 生活路線バスの利便性(便数・乗降場等)改善に向けての取組について問う。
- ② 空席のあるスクールバスの活用への取組について問う

(2) 起業者への対応について

- ① 起業者への有効な施策(立ち上げ経費等に係る支援策)への取組について問う。
- ② 伴走支援策の現状を問う。

(3) 防災について

- ① 防災無線屋外子局の機能向上の取組について問う。
- ② 内水氾濫箇所の調査及び対策について問う。

2 行財政改革について

(1) 行財政改革実施計画について

- ① 定員適正化計画の管理状況を問う。
- ② 浜田市教育文化振興事業団のあり方の現状を問う。
- ③ 市有財産利活用の現状を問う。
- ④ ロードマップ管理との関係について問う。

(2) 実施された施策について

- ① 「シングルペアレント介護人材育成事業」の行財政への効果を問う。
- ② 「移動期日前投票所(車)の導入」の行財政への効果を問う。

(3) 行財政改革の今後について

- ① これから現れると予想される行財政改革の効果を問う。

発言No.

12

受付No.

17

令和 7 年 6 月 12 日
10 時 31 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 9 番

氏名 柳 楽 真智子

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 子育て支援について

(1) リトルベビーと保護者への支援について

- ①2,500グラム未満で生まれた低出生体重児(リトルベビー)の記録ができるよう、島根県がリトルベビーに対応した母子手帳(リトルベビーハンドブック)を作成されたと聞いているが、活用できる対象について伺う。
- ②リトルベビーハンドブックの活用状況を伺う。
- ③リトルベビーなど、出生してからすぐに退院できない子どものために、母親が搾乳した母乳を届けている。様々な施設内に授乳室が設けられているが、「授乳室」という表記があることで、子どもを連れずに搾乳のために入ることに抵抗を感じるお母さんは多いと聞いている。授乳室に「搾乳できます」の表記があることで使いやすくなると考えるが、「搾乳マーク」の掲示について現状を伺う。
- ④産後の職場復帰に際しては、職場での搾乳も想定される。事業者や職場の人たちの理解が必要であり、安心して働き続けるための環境整備が求められる。市として事業者への働きかけについてご所見を伺う。
- ⑤商業施設等でも搾乳を行うことがある。搾乳が必要な親子がいることの理解を進めることも重要と考えるが、今後の周知の考え方を伺う。

2. 地域共生社会の構築について

(1) コミュニティソーシャルワーカーについて

- ①浜田市にコミュニティソーシャルワーカーは配置されているか伺う。
- ②コミュニティソーシャルワーカー配置のメリットについて、ご所見を伺う。

(2) 孤独・孤立対策について

- ①孤独・孤立を防ぐ取組の現状を伺う。
- ②孤独・孤立対策には、すべての人に居場所と役割があることが大切で、これからは支援から社会参加に繋げる様々な仕掛けが必要と考えるが、ご所見を伺う。
- ③8050問題が不登校とつながっているとの指摘がある。8050問題の対応状況を伺う。
- ④学校と福祉が連携することで、子どもを取り巻く多様な課題への対応が進むと考えるが、ご所見を伺う。

3. 防災・減災について

- ①令和7年3月定例会議において、防災・減災に女性や子どもの視点をと訴えさせていただいた。乳幼児を育てる家庭が安心して避難できるよう、赤ちゃん用段ボールベッドの備蓄をしている自治体があるが、浜田市でも取り入れる考えはないか伺う。
- ②浜田市の防災士資格取得者で「防災士連絡会」を立ち上げておられる。毎月の定例会や防災出前講座の支援などにも取り組まれ、積極的に活動されている。防災士研修センターからフォローアップのための講座の案内などもあるが、自己負担が3万円近くかかることから受講しにくいと考える。市として防災士のフォローアップ研修会を実施する考えはないか伺う。

発言No. 13

受付No. 8

令和 7 年 6 月 12 日
9 時 1 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 12 番 氏名 上野 茂

答弁を求める者 (○をつける) 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 旭中学校防音対策事業について

(1) 国の補助事業を断念し浜田市の単独事業とすることについて

- ① 学校への影響と支援の認識について伺う。
- ② 5市町村での対応が分かれ、学校の防音対策が盛り込まれなかった理由を伺う。
- ③ 騒音測定が行われたが、基地周辺と比べてどのような差があるのか伺う。
- ④ 古い校舎、窓二重サッシ化による効果、事業費などを考え、場所の移転や建替えを優先する考えはないのか伺う。
- ⑤ 突然の爆音で近くの施設では泣き出す子もいると聞いている。いつまで続くのか、このような状況に対する市長の考えを伺う。

2 島根あさひ社会復帰促進センターの共同運営の今後について

(1) 地域団体や人材など新たな連携について

- ① 地域の活性化に向け、来年からの新たな事業者との取組の考えを伺う。
- ② 開所から17年経つが、定住の現状を伺う。

3 危険木、支障木について

(1) 地域井戸端会で多く出た要望等について

- ① 自治会等からの要望も出ていると思うが、危険木、支障木の対応の現状を伺う。
- ② 県道にある今にも折れそうな枯れ木について、写真で現場の説明を2度行ったが処理されていない。市と県との連携について伺う。

発言No. 14

受付No. 2

令和7年6月10日

8時58分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 18番

氏名 佐々木 豊治

答弁を求める者

☒ 市長

☒ 教育長

監査委員

選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長

固定資産評価審査委員会委員長

公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1、 地域井戸端会で出された意見・要望について

(1) 小規模農家への補助拡充について

- ①小規模農家への水稻機械代の補助が今年度から始まったが、各会場で紹介すると、ぜひ拡充してほしいとの強い意見が出されたが、所見を伺う。

(2) 美又温泉施設のリニューアルに伴うキャッチコピーについて

- ①美又温泉施設のリニューアルに伴い、誘客のため新たなキャッチコピーが必要ではないかとの意見が出されたが所見を伺う。

(3) 地域交流プラザまんでんの活用について

- ①空き店舗となっている「地域交流プラザまんでん」について、現在の活用状況について伺う。
- ②イベントなど、地元の意見を反映して活用できるようにしてほしいとの意見があるが、所見を伺う。
- ③となりには神楽が上演できる野外ステージがあるが、活用状況を伺う。
- ④広島と近い位置にあるため、夜神楽の定期公演などが考えられないか伺う。

2、 いじめ防止と対策の取組について

- ① 浜田市でのいじめの現状について伺う。
- ② いじめ防止や対策の現状について伺う。
- ③ 大阪府寝屋川市での「いじめゼロに向けた取組」を視察した。

令和元年に市長部局の危機管理部に「監察課」を設置し、独自の早期いじめ対策に取り組んでいる。

また、いじめを法的問題としてもとらえ、責任の追及や損害の回復にも取り組まれ、被害者を支援する補助金事業にも取り組まれている。

「子どもたちをいじめから守るための条例」を整備し、特徴として保護者や地域住民に対し、いじめに関する情報提供を行う責務や、市長の権限を明示し、いじめの申し出があったときの調査、学校などに対する出席停止などの措置を勧告できることなどが定められている。

ほかに、毎月1回、全児童・生徒にいじめ通報促進チラシを配布し、いじめの早期発見と抑止効果に取り組んでいる。

同様の取組が他の自治体へも広がっているようで、浜田市での取組を検討すべきと思うが所見を伺う。

3、 コミュニティスクールの取組について

- ① コミュニティスクールの取組の現状を伺う。
- ② どのような成果を目指していくのか伺う。
- ③ 視察した滋賀県竜王町では、コミュニティスクールと公民館を核とした地域学校共同活動の一体的推進に取り組まれており、参考になる事例と思うが所見を伺う。

発言No. 15

受付 NO. /
令和 7 年 6 月 6 日
3 時 36 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 15 番 氏名 岡 本 正 友

答弁を求める者
(口をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員長

発言項目及び要旨

1 今後の久保田市政の運営について

①先の3月定例会議において4期目の市政運営について言及を差し控えられたが、任期が余すところ4カ月になる。4期目の市政運営への考えを問う。

2 現場とつながる政策対応の必要性について

本年10月に市議会議員の任期満了に伴う選挙が予定されている。

節目にあたり、改めてこれまでの市民の皆さんからいただいたご意見やご要望を受け止め、市政に届けることが私の責務と考える。とりわけ5月15日からの5か所において参加した「地域井戸端会」では、地域に根差した具体的な声を多数いただいた。加えて日々の議員活動の中でも現場からの相談が寄せられている。

本定例会議では、そうした市民の声に真正面から向き合い、7項目にわたって現状の課題を示すとともに、今後の対応や改善策について問う。

(1) 三隅地区4漁港の水産業の活性化について

後継者不足や水揚げ量の減少などにより閑散する漁港を憂う地区住民から、漁業者の移住定住施策を求める意見をいただいている。

- ① 市としての水産業振興計画の現状と今後の戦略を問う。
- ② 漁港間の連携の現状について問う。
- ③ 加工業・流通分野への支援策を問う。
- ④ 漁業者への移住定住支援についての考えを問う。

(2) 特定外来種「オオキンケイギク」の除去対策について

旭町和田まちづくりセンターでの「地域井戸端会」で県道沿いや空き地に繁殖する外来機種「オオキンケイギク」によって、在来種を駆逐する恐れがあることから、環境省でも駆除を推奨している状況があり、その対応を求められた。

- ① 市内の道路添いや河川敷等における「オオキンケイギク」の繁殖状況を問う。
- ② 市民からの通報や苦情の件数を問う。
- ③ 今後の駆除対策への考えを問う。

(3)ダム施設の観光資源化について

石見まちづくりセンターでの「地域井戸端会」において、浜田・三隅・周布など市内にダムは複数あるが観光活用は限定的であり、その対応について要望を受けた。

- ① これまでに浜田市議会において提案されてきた記憶がある。検討状況を問う。
- ② 「ダムカード」や「ダム周辺散策」など活用した観光施策の検討余地はあるかを問う。

(4)浜田城址の眺望確保のための樹木伐採について

石見まちづくりセンターでの「地域井戸端会」において、浜田城址が眺望スポットとして期待されるが、巨木化した樹木が妨げとなっているとの声があった。県の管理下にあると聞くが以下、その対応について伺う。

- ① これまで、安来市の「月山富田城址」の観光スポットとして樹木の伐採の整備状況について報道されている。その認識について問う。
- ② 眺望確保の観点から定期的な伐採や整備計画を策定する考えを問う。

(5)漁業者の廃業に伴う廃船の処理・放置船対策について

地域住民より、港に廃船が放置されることにより、景観や安全上の課題をあげてその対策を求められている。

- ① 市内の漁港における廃船の数や状態を問う。
- ② 廃船が放置される事による環境や景観への影響を問う。
- ③ 対策についての考えを問う。

(6)漁港整備に伴う公園施設の復旧について

これまでに浜田漁港整備から、その周辺に公園やトイレが整備されている。公園内に設置されていた東屋や時計台など経年の台風や劣化より撤去されたままの状況から、市民より復旧を求める要望が寄せられた。

- ① 破損した公園施設(東屋、時計台など)について認識を問う。
- ② 破損後の対応状況と未復旧の理由を問う。
- ③ 復旧への対策について問う。

(7)劣化した観光看板の修繕について

田町の鏡山入口に設置された観光看板が、色あせや文字の消失により、観光案内機能を果たしていない状況に市民から改修を求める要望を聞いている。

- ① 全市の観光看板の把握状況を問う。
- ② 看板の点検の実施と修繕計画を問う。

発言No. 16

受付No. 7

令和7年6月11日

10時 25分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 14 番 氏名 布施 賢司

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 国の天然記念物、石見畳ヶ浦の諸問題について

- ① これまでの観光地としての整備状況について問う。
- ② 市道「めがね橋」の塩害や老朽化による通行止めの対処について問う。

2 振り込め詐欺の対処方法について

- ① 島根県内で特殊詐欺が多く発生する中、特殊詐欺の未然防止に貢献しているコンビニエンスストアの方に感謝状が贈られたとの報道がある。これだけ報道されても高齢者をターゲットにした特殊詐欺は毎日のように起こる。浜田市もその事案が多くあると聞くが、その特殊詐欺被害を防ぐため、金融機関のATM前で高齢者がスマートフォンなどの通話を禁止したり、コンビニに防止措置を義務付ける条例を県に働きかけてはどうかと思うが所見を問う。

3 地域井戸端会で市民の声から感じた問題点や提案について

(1) 定住対策問題について

- ① 近年の空き家バンク登録物件数と入居率について問う。
- ② 空き家バンクの活用促進事業補助金の申請者数と改修事業補助金の申請者数を問う。
- ③ 一定の地区でまだ登録していない空き家を、U・Iターン者用に「お試し居住」が出来るように改修して実際に住んでもらう地域再生型モデルの空き家対策も必要との意見があったが所見を問う。
- ④ 空き家の魅力発信に生成AIを活用する動きが全国で始まっているが、画像生成AIを活用して空き家のリノベーションを「見える化」する、新しい空き家バンクのサイト構築に浜田市も取り組むべきだと提案をするが所見を問う。

(2) 敬老福祉乗車券交付事業について

- ① 敬老福祉乗車券交付事業が始まって数年経過するが、対象者である70歳以上の住民

や障がい者の申請率と使用率を問う。

- ② 運転免許自主返納等支援事業について 1 冊 3, 000 円分の乗車券 5 冊の無料交付であるが、夫婦で免許を持っていて一方が免許返納しても、夫婦で出掛けて用事を済ませることがある世帯においては、無料交付が無駄になるとの意見があった。自主返納者には乗車券とは別に、浜田の共通商品券等を選択できるようにとの要望があったが所見を問う。

(3) 特定健診問題について

- ① 健康寿命を延伸するため特定健診を受けることが大事である。依然、受診率が悪いようだが、近年の特定健康診査受診率を問う。
- ② 命に関わる大変良い制度なのに、なぜ受診率が増えないのか所見を問う。
- ③ 受診率を増やすための未受診者への受診勧奨の効果について問う。

(4) 病病連携について

- ① 浜田圏域である浜田市（医療センター）と江津市（済生会病院）は、円滑に治療やケアを継続するための病病連携はできているのか問う。
- ② それぞれの診療科偏在の現状と問題点を問う。
- ③ 圏域が違う益田赤十字病院と医療センターとの連携はどうか問う。

一般質問発言通告書

議席番号 3 番 氏名 大谷 学

答弁を求める者
(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 新型コロナウイルス感染症対応の教訓と現状について

(1) 次なる感染症への備えとしての「事務報告」について

- ① 令和6年6月の定例会議における個人一般質問において、鳥取県が「新型コロナウイルス感染症対策検証報告書」を作成したことを踏まえ、鳥取県のようにこの歴史的な経験を記録として後世の人々に役立ててもらえるように検証報告書にまとめておく必要があると提案したところ、「検証報告書は考えていないが、事務報告等で記録を残してまいります」との答弁であった。どのような内容で残そうとしているのか状況を伺う。

(2) 令和7年の感染状況について

- ① 市中における感染状況について伺う。

(3) 令和6年6月以降の相談体制について

- ① コロナ後遺症（ワクチン後遺症）等の相談状況について伺う。

2. 文化を醸成する図書館について

(1) 図書館事業としての研究会や資料展示会等の主催について

浜田市立図書館条例第3条第6号において、図書館が行う事業として「読書会、研究会、鑑賞会、映写会、資料展示会等」と掲げられている。

- ① 研究会の主催状況について伺う。
② 資料展示会的主催状況について伺う。

(2) 館内利用者の迷惑を及ぼす行為について

浜田市立図書館条例施行規則によると、館内利用者等の遵守事項の中に「迷惑を及ぼす行為をしないこと」とある。

- ① 具体的にはどのような行為を想定しているのか、その認識を伺う。

(3) 誰もが利用しやすい館内の雰囲気について

- ① 年間の年代別利用状況について伺う。
② 乳幼児を伴う親子や若年層の利用促進に向けての方策を伺う。

3. ふるさとの誇らしき景観の保全について

(1) 浜田城の石垣の現状について

- ① 木の根による影響が心配されるが、管理等はどのような状況にあるかを伺う。
② 地震等で崩れると修復に多額の経費が必要となる。予防のための補強の必要性に対する認識を伺う。

(2) 太陽光発電等の開発事業を行うときの関係条例について

- ① 地域の景観保全と秩序ある開発を指導監督するための根拠となる法律や条例にはどのようなものがあるかを伺う。

発言No. 18

受付No. 15

令和7年6月12日

10時18分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 16番

氏名 芦谷英夫

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1、市政の推進態勢について

- ① 市長は行政連絡員会議、地域協議会、地域の日、連合自治協議会との協議などに出席し、そこでは市政推進に対する意見、地域の要望などが出されるが、それをどのように受け止め、どう市政推進につなげてきたのか。
- ② 市民から市長直行便が寄せられ、市民の生活、市の政策、政治的なことなどがあると思うが、それらに対する市長の考えはどうか。

2、浜田市の元気づくりについて

- ① 市の元気づくりには人出を増やし、消費を拡大することが重要であり、産業振興の基本は外貨を稼ぐこと、とされているが、県の統計では、織物・衣服・身の回り品、飲食料品などの年間商品販売額は、浜田市は県内8市、石見4市の中ではどのような状況、位置にあるのか。
- ② 石見神楽、特産品や食、アクアスと海、歴史や文化など、具体的な観光商品化を進める、民間事業者の支援、行政の体制づくりなどもっと力を入れる必要があるのではないか。

3、定住施策の推進について

- ① ここ10年間で誘致した事業所、企業数などはいくつあって、その数の推移と働く人の推移はどのようになっているのか。
- ② ここ10年間で地域おこし協力隊は、何人任命し、現在でも浜田市に在住している人は何人おられ、定住は進んでいるのか。

4、市民の健康づくりについて

- ① 国民健康保険の特定健診の受診率、要特定保健指導者数及び率、その終了者数及び率はどのようになっている、その推移からみて健康づくり施策の成果は上がっているのか。
- ② 地域で健康づくりに取り組めるよう、まちづくり推進委員会の事業に位置付け、まちづくりセンターなどで、地域が主体となって健康づくりに取り組む体制づくりが必要ではないか。

5、高齢者の生活支援、介護サービスの充実について

- ① 生活支援体制整備事業のサービスを受けた方の推移はどうなっているのか、直営になって充実してきているのか。
- ② 訪問入浴介護サービスの利用が断られるとの市民からの声が寄せられているが、実情はどのようになっているのか。
- ③ 介護事業所から介護人材が不足しているとの声が寄せられているが、市として不足している人数をどのように把握しているのか。

6、協働のまちづくりの推進について

- ① 町内会加入率は、新聞報道によると令和5年度84・1%とあるが、5年度以前の加入率は、経年的にどのように推移してきたのか。
- ② 協働のまちづくり推進は、連合自治会、地区社会福祉協議会、自主防災組織などが個別にあるのではなく、まちづくり推進委員会に収れんさせる、あるいは関連づけるなどが必要であるが、協働のまちづくりを進める市が責任をもって、市が一体となってその推進体制をつくる必要があるのではないか。

—以上—

発言No. 19

受付No. 9

令和 7 年 6 月 12 日
9 時 11 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 7 番

氏名 村武 まゆみ

答弁を求める者

(○をつける)

員長

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委

発言項目及び要旨

1. 不登校児童について

- ① 先日、総務文教委員会の意見交換において、平成 26 年度から令和 6 年度の小中学校の不登校数の推移について確認をした。過去の数字を見ると不登校数は年によって増減をしているが、令和 6 年度において、小学校は全体の児童数 2,279 人中 75 人で割合は 3.29%。中学校は全体の生徒数 1,219 人中 98 人で割合は 8.04%で、不登校児童生徒数の割合が平成 26 年度以降過去最高となっている。その結果についてどのように受け止めているか伺う。
- ② 不登校児童生徒が急増したことへの対策についてどのように考えているか伺う。

2. 協働のまちづくりについて

(1) 協働のまちづくりの推進について

- ① 浜田市では令和 3 年 4 月に「浜田市協働のまちづくり推進条例」が施行され、令和 4 年 2 月に「浜田市協働のまちづくり推進計画」が策定された。計画期間の令和 4 年度から令和 7 年度の間、毎年度評価・検証をしていくこととしている。直近の評価・検証の結果を伺う。

(2) まちづくりセンターについて

- ① 協働のまちづくりが始まり、公民館がまちづくりセンターになった。以前の公民館では社会教育・生涯学習の拠点であり、まちづくりセンターになり社会教育の手法による人づくりを土台としたまちづくりを進めていくことになった。まちづくりセンターになり、まちづくり委員会推進との連携サポートなど、まちづくりの活動は進んできていると感じるが、以前の公民館時代に比べ社会教育・生涯学習が希薄になっていると感じるが所見を伺う。

3. がん対策について

- ① 浜田市内のがんサロンに参加される方々からや、先月浜田市議会で実施した地域井戸端会において、浜田医療センターで実施している PET-CT がん検診について意見を伺った。浜田医療センターにおける来年度以降の PET-CT 機器の更新について、現在の方針の状況を伺う。
- ② 浜田市で実施しているがん検診は無料で実施されており、他市に比べ手厚い支援となっているが、がん検診の受診数について伺う。
- ③ がん検診で異常が発見されて、がんと診断された人数について伺う。
- ④ がんサロンへの支援について伺う。

以上

一般質問発言通告書

議席番号 17番

氏名 永見 利久

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1、高齢者等の買い物支援について

(1)見守り移動販売について

高齢者等の買い物困難者の安定した日常生活の実現、見守りや安否確認を目的とした、自宅訪問の移動販売の取組に対しての経費補助がされている。地域井戸端会で、この取組について意見や要望を伺った。

- ① 中山間地域高齢者等の買い物困難者に対して、安否確認を目的とした移動販売の取組地域と状況について伺う。
- ② 市内高齢者の安否確認を兼ねた買い物支援の状況について伺う。

2、防災対策の取組について

(1)浜田市総合防災訓練について

6月1日に、市内各地域において、自主防災組織及び町内会の主体で、水害・土砂災害を想定しての避難訓練を実施され、多くの市民が参加された。

- ① 「高齢者等避難」等の無線放送を受けての避難行動訓練の参加者の状況について伺う。
- ② 自主防災組織及び町内会の避難所への避難訓練状況について伺う。
- ③ 自主防災組織及び町内会を対象とした防災出前講座の開催状況について伺う。
- ④ 今年度の総合防災訓練の成果についての認識を伺う。

(2)保育園、幼稚園、小中学校での避難訓練について

地域井戸端会において、保育園、幼稚園の避難訓練について意見があった。

- ① 市内各地域での保育園、幼稚園、小中学校での避難訓練の取組について伺う。

(3)避難所看板設置事業について

市内各地域の避難場所が、どの災害種別に適しているかを市民に日頃から周知し、災害時に適切な避難場所へ避難できる看板設置について質問をする。

- ① 今年も梅雨に入り、豪雨災害等の発生が想定される。避難所看板設置事業の進捗状況について伺う。

(4)防災行政無線放送について

防災行政無線、各地域において、災害時や行政からのお知らせ、催しの案内等が実施され、住民の方々も活用されてきた。最近は放送内容が少し以前とは異なってきている。

- ① 各地域における、行政放送の実施内容について伺う。
- ② 各地域における火災放送が行われなくなった。火災発生時の関係地域に対する情報提供についての考えを伺う。

3、若者支援ファンド事業について

市内に住む若者が「住んでよかった」を感じられる取組を行うことで、「若者が暮らしやすいまちづくり」に繋げ、若者世代の定住及び人口社会減の緩和が期待でき、令和 5 年度・令和 6 年度と 2 か年で取り組んでこられ、令和 7 年度も引き続き取り組まれる。この事業の取組内容として「移住・定住人口の創出」、「仕事の創出」、「住まいの創出」、「若者世代の支援」にそれぞれ整備や支援が行われている。

- ① 若者世代の定住の成果について伺う
- ② 人口社会減の緩和の成果について伺う。